

拍手するあなたも審査員

コンチェルト

コンクールニュース Vol.8

2004.11.10

インタビュー

タン・シヤオタン氏 (中国)

—— ピアノを弾くことに対して、自分自身が自由に自然でいたい ——

第2回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第1位のタン・シヤオタンさんが、10月8日の日本初リサイタルのために再び来仙。今回のインタビューでは横浜在住で、幼なじみの石勝（セキチュウ）さんと、中国語通訳として出場者サポートボランティアの健谷真樹さんにも同席していただき、いくつかエピソードなどを伺いました。

◆10月8日のリサイタルでは大変すばらしい演奏を聴かせていただきましたが、ご自身ではいかがでしたか。また今回のリサイタルのようなソロと、コンクールの課題曲だった協奏曲とは、どこが違うのでしょうか。

リサイタルは自分でも良かったと思います。ただ、もっと良いコンサートにもできたのではなかろうかと残念に思う部分もあります。ソロの演奏では、曲に対する考えやこうしたいと思うことを割と自由に表現することができます。一方協奏曲ではオーケストラとの調和によって良い音が生み出され、良い音楽が表現できます。そういう意味で協奏曲では、自分の思いだけを表現してしまうとまとまりのないバラバラの音になってしまいます。協奏曲はみんなで作るものなので、突出して自分の表現だけを行うということではできないですね。

◆タンさんが音楽をする上で最も大切にされていることはどのようなことですか。

高い品位を目指して音楽を理解していくことです。

◆仙台国際音楽コンクールでは緊張されましたか。特にファイナルの前とか。

別にファイナルの時だけ緊張していたわけではないです。予選の段階であってもどの段階でも演奏が始まる前は、ある程度の緊張感があります。緊張感を持って自分を高めていくことはとても良いことだと思うので、緊張がいけないということではないと思います。まったく緊張がないというのも変だと思えます。

◆コンクールでの仙台フィルハーモニー管弦楽団との共演はいかがでしたか。

仙台フィルの方々に対してとても良い印象を持っています。コンクール期間中彼らと一緒に演奏する時間はとても短く、ファイナル前でも一時間半くらいしか彼らと一緒に練習したり音楽の交流を持つ機会がありませんでした。それでもその短い時間を一緒に演奏している中で、彼らと心と音楽の交流を持てたと思うので、とても良かったと思います。

◆コンクール期間中、仙台で生活をして忘れられないエピソードはありましたか。

日本にいる友人と一緒に牛タンを食べに行った時、地元の年配の方と知り合いになり「じゃあ飲みに行こう！」と誘ってもらい、日本酒やいろいろな酒を飲みました。その時に「梅干」を食べたのですが、とにかく酸っぱくて参りました。(笑) クジラのベーコンとウニも食べました。特にお刺身は大好きです。

◆現在ドイツにお住まいですが、留学先をドイツに選ばれたのはどうしてですか。また留学してからご自身が変わったことはありますか。

ドイツはクラシック音楽の歴史がとても長いですし、偉大な音楽家がドイツからたくさん生み出されています。それがドイツを選んだ理由の一つです。ドイツに留学してその町の雰囲気や生活様式、ドイツ人の思想を学びたいと思いました。ドイツ人の音楽に対する考え方は、とても規律があり厳しくきっちりしています。そういった面がこれまで自分には無かったので、確かに影響を受けています。例えば一緒に演奏している人たちが先生から「こういう風にしたらいかがではないか」という提案をされた時は、それに応えられるようにやっているつもりですし、自分なりにも変化があったと思います。(次ページへ)



◆タンさんはクラシック以外の音楽を聴くことはありますか。また音楽以外に勉強していることや趣味などはありますか。

ジャズがとても好きです。ジャズのピアノというのもぜひやってみたいと思いますが、ジャズのピアノ演奏にもいろいろな規律があって、それを勉強する時間がなかなか取れません。音楽以外に勉強したいこともありますが、今は音楽以外の勉強をする時間がありません。遊びに行きたい気持ちもあるけれど、それも同じ理由で時間が取れません。なんとかやれるとしたら、興味のある本を読むこと。それで思想とか文化を学ぶということはできますが、ピアノの練習をしないで他のことを勉強することは今の自分にはできません。

◆タンさんがピアノを始めたきっかけは。音楽をする環境が身近にあったのでしょうか。

特に思い浮かびません。両親がわりと音楽に興味があったからでしょうか。進歩も早かったのでしょうね、それでいろいろな場に出る機会が多く、成績もよくなって今に至ったのだと思います。

◆今一番夢中になっている曲や作曲家はいらっしゃいますか。

それは難しい質問ですね。特に偏ってこの曲、この作曲家がいまいというのはありません。いろいろな曲を弾いて練習していくというのが自分の進歩につながると思っています。

◆最後になりますが、タンさんにとって音楽とはどのようなものですか。

音楽は自分にとって特別なことではなく、生活の一部です。そして音楽は人に夢や感動を与えるものだと思います。無理に「これは僕の仕事だから完成しないとイケない」というようなこと・・・、音楽を自分の職業という型(かたち)では思いたくはないのです。音楽の占める割合が他の人より、他の事よりも多いということです。仕事として考えるより、もっと自然に自由に音楽を表現していきたいし、ピアノを弾くことに対して自分自身が自由で、そして自然でいたいと思います。

◆長い時間、どうもありがとうございました。今後のご活躍を期待しています！

(10月10日のタンさんとコンクールボランティアの交流会後、大変お疲れにもかかわらず、私たちの質問に真剣に丁寧に答えてくださいました。どうもありがとうございました。) (嵐/横)

第2回仙台国際音楽コンクール出場者の近況

<ヴァイオリン部門>

◇マクシム・プリリンスキー

第1回 ベンジャミン・ブリテン国際ヴァイオリンコンクール
(ロンドン) 第2位、特別賞 (2004.6-7)

◇アンドレアス・ヤンケ

第1回 ベンジャミン・ブリテン国際ヴァイオリンコンクール
(ロンドン) 第3位 (2004.6-7)
第23回 ロドルフォ・リビツァー賞国際ヴァイオリン・コンクール
(イタリア) 第2位、特別賞 (2004.9)

◇ヴァーリヤ・デルヴェンスカ

ブレッド音楽祭国際ヴァイオリン&ヴィオラ・コンクール
(スロベニア) ヴァイオリン部門第1位 (2004.7)

◇寺下真理子

第2回東京音楽コンクール弦楽部門第2位 (2004.8)

◇有希・マヌエラ・ヤンケ

第50回バガニーニ国際ヴァイオリンコンクール (イタリア)
最高位、最優秀賞、最優秀現代曲賞、最優秀カプリス賞 (2004.9)

◇守屋剛志

第73回日本音楽コンクールヴァイオリン部門第2位、岩谷賞
(聴衆賞)、黒柳賞 (2004.10)

<ピアノ部門>

◇岡本麻子

第2回東京音楽コンクールピアノ部門第1位 (2004.8)

《根津理恵子さん(ピアノ部門出場者)からボランティア宛にお便りが届きました》

第2回仙台国際音楽コンクールでお世話になってから、早いもので3ヶ月が経ちました。良い経験と素晴らしい思い出をくださった皆様にご感謝申し上げます。現在私はポーランドのワルシャワに留学しておりますが、先日9月25日に東京にて一時帰国リサイタルを開かせていただきました。カワイ音楽企画主催で『根津理恵子リサイタルシリーズ・ショパンをめぐる作曲家たち』と題し、2003年3月より継続しております。4回目に当たる今回は、ショパン、リストの他にポーランドの偉大な音楽家ハデレフスキの作品をメインとしたプログラムで鑑みしました。当日はたくさんの方には聴きただけで幸せでした。お忙しい中仙台など遠いところご来場くださった方々に心から御礼申し上げます。

<今後の予定> 2005年1月8日(土) 高松四国村異人館にてリサイタル

1月15日(土) 東京 TOKYO ホールにてリサイタル

6月18日(土) 東京 カザルスホールにてリサイタル「ショパンをめぐる作曲家たち Vol.5」



(左から根津さん母と理恵子さん 千葉・大森(仙台から))

第3回に向けて、ボランティアは今！

第2回仙台国際音楽コンクール（2004）は300名にもものぼるボランティアの協力により、今年6月に無事閉幕しました。多くの市民を魅了した若人によるヴァイオリンとピアノのコンクールでした。この大会の閉幕にあたり、審査委員、聴衆および世界各地から来た出場者から喜ばれたのはボランティアの親切的対応と温かい歓迎、そして会場運営への良いサポートでした。ボランティア一人ひとりが心を込めた成果にほかにありません。第3回仙台国際音楽コンクールは平成19年（2007）に開催される予定です。世界的な評価が高まりつつあるこのコンクール。次回も、今回同様世界各地から多数の応募者があるものと予想されます。現在も第2回参加のボランティアの多くが第3回に向けて継続して活動を行っています。総合的な業務を担うボランティア委員会、入賞者コンサートの会場運営サポート活動、コンクールニュース「コンチェルト」の発行、また語学勉強会なども同時進行していく予定です。興味のある方は事務局へお問い合わせ下さい。引き続き、各自の持ち味・個性・得技を発揮して、ボランティアの輪を広げていきます。

ボランティアの主な活動

会場運営サポート	コンクール関連事業、コンクール本番の表方（受付、場内案内、物品販売等）
広報宣伝サポート	コンクールニュース「コンチェルト」発行、出場者向け「滞在のしおり」制作、市内小中学校向け「鑑賞のしおり」制作
出場者サポート	交流サロン「ハーモニー」運営の他、語学力を生かした出場者支援
ホームステイ受入れ	コンクール出場を終了した出場者のホームステイ受入れ

私の聴いた音楽会

★「コンサート in ミュージアム」10月15日（金）

ピアニスト、中川賢一氏プロデュースのコンサートを聴いた場所は閉館後の宮城県美術館エントランスホール。

「コンサート in ミュージアム」と銘打ったチェリスト古川展生氏とのデュオコンサート。

バッハ無伴奏チェロ協奏曲、ドビュッシーのチェロソナタから始まり、ポピュラーな曲で閉館後の無機質な空間を色のあるものへと変えていった。曲の解説も古川氏本人がした。演奏家がどの様な思いを入れて演奏をしたのか、作曲家に対する気持ちなど演奏者自らが語った。クラシックがまた一歩身近になった・・そんな気がした。心も体も癒され、至福の時間をすごした。次回は12月19日（日）、丸山泰雄氏（Vc）との共演、また行こうと思う。（栗）

★サイトウ・キネン・フェスティバル

オーケストラコンサートA 8月22日（日）

念願の仙台市でサイトウ・キネン・フェスティバルのオーケストラを聴いた。小澤征爾指揮のチケットは取れなかったが、大野和士指揮のAプログラムは、望月京、ホメオボックスの前衛作品やファリャのバレエ音楽「三角帽子」を力みなく、すっきり明瞭に遊び心満点に演奏し、私たちを楽しませてくれた。サイトウ・キネンオーケストラのメンバーにも若い人たちが増え、その中に仙台フィルの西江さん（Vn）、原田さん（Vc）、コンクール出場の大宮さん（Vn）、白井さん（Vn）が加わっており、よりいっそうオーケが身近に感じられ嬉しかった。これから回を重ねる毎に仙台以外の地で出場者の演奏を聴く機会が増えそうであり、恐怖（財布の中身）でもある。それとこの頃ほどの演奏会場についても運営にチェックを入れてしまい当事者の眼で観ている自分がある。これって完全にボランティア症候群？あな 恐ろしや。（昌）



【レストラン パリンカ】仙台市青葉区霊屋下19-8 TEL/FAX022-213-7654

店内は天井が高く、グランドピアノも置かれており、食事と音楽をゆったりと楽しめるイタリア料理店。オーナー小関康さんに伺いました。（栗）

●クラシックの演奏会開催のきっかけは。

音楽が好きで料理も好き。ルネッサンス時代の音楽が好きです。イタリアのフィレンツェで食べたパスタが美味しくイタリア料理の店にしました。始めは週末だけの演奏会でしたが、4、5年前からピアノの発表会の依頼が増え、また仙台バッハアカデミーの演奏会も続けています。このような経験から私の主催で演奏会をするようになりました。

●これからの演奏会予定は。

- 11月27日「ヴォーカルコンサート」 12月11日、12日「比嘉ひろ音、ホワイトクリスマスコンサート」
12月26日「年忘れ楽芸会」 12月28日、29日「原田哲男（仙台フィル）のパリンカ暖炉コンサート」

第2回仙台国際音楽コンクール第1位入賞者コンサート

1. 東京交響楽団・東京芸術劇場シリーズ第78回 松山冴花 出演

日時 2005年1月21日(金) 19:00開演
会場 東京芸術劇場 指揮 大友 直人
演奏曲目 グラズノフ: ヴァイオリン協奏曲イ短調 op. 82
チケット問合せ 東京交響楽団チケットセンター04-520-1511

2. 松山冴花 ヴァイオリンリサイタル

日時 2005年1月25日(火) 19:00開演
会場 仙台市青年文化センター コンサートホール
演奏曲目 クライスラー: プニャーニのスタイルによる前奏曲とアレグロ、モーツァルト: ヴァイオリン・ソナタホ短調 K304(300C)、イザイ: 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番イ短調 op. 27-2、サン＝サーンス: ヴァイオリン・ソナタ第1番ニ短調 op. 75、サラサーテ: ツィゴイネルワイゼン op. 20
チケット問合せ 仙台市市民文化事業団 022-727-1875

3. 東京リサイタル (二夜連続) 王子ホール (銀座) 松山冴花 ヴァイオリンリサイタル 2005年4月21日(木) 19:00開演



演奏曲目 ノヴァーチェク: 無伴奏
バッハ: シヤコンヌー無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番ニ短調 BWV1004から
ショーン: 詩曲 op.25 フランク: ヴァイオリン・ソナタ イ長調
バッジーニ: 妖精の踊り - 幻想的な スケルツォ op.25
ピアノ トーマス・ホッペ

タン・シヤオタン ピアノリサイタル 2005年4月22日(金) 19:00開演

演奏曲目 モーツァルト: 幻想曲 ニ短調 K397(385g) ショパン: ノクターン ハ短調 op.48-1 ショパン: 4つのマズルカ op.30 ショパン: バラード第1番ニ短調 op.23 ショパン: スケルツォ第2番 変ロ短調 op.31 スクリャービン: 練習曲嬰ハ短調 op.2-1 スクリャービン: 練習曲嬰ニ短調 op.8-12 シューベルト/リスト: 「ウィーンの夜会」ワルツ・カプリス S427 第7番 & 第6番 リスト: スペイン狂詩曲 S254 プロコフィエフ: トッカータ op.11



- チケット 一般券 3,000円 学生券 2,000円 (当日限定20枚・当日販売のみ)
二夜連続券 5,000円 (王子ホールチケットセンターのみ取り扱い)
王子ホールチケットセンター 03-3567-9990
電子チケットびあ <http://pia.jp/> 0570-02-9990
イープラス <http://eee.eplus.co.jp> 03-5749-9911
仙台市市民文化事業団(仙台市青年文化センター1階事務室) 022-727-1875
イズミティ21 022-375-3101
- 発売日 2004年11月10日(水)
- 問合せ 仙台市市民文化事業団コンクール推進課 022-727-1872
テレビマンユニオン 03-5478-7617



編集後記 *飲みケーションも重ね、一段と結束した感のある広報宣伝サポートボランティア、第3回に向かって新たな一歩を踏み出しました。(吾) *懐かしいメンバーが再び集合。これから息の合った仕事をしたい。(長) *ワインのスーパーやクリスマスケーキの予約の広告を目にし、今年も・・・♪もう、いくつ寝ると、コンクールというのは気が早すぎでしょうか。(薫) *いい音楽をみんなに届けたい、そう思っている仲間がいるということに感激。(栗) *第3回コンクールに向けて、スタートしています。(伯) *何回してもインタビューというのは難しいです。勉強になりました。(鳩) *音楽の楽しさを感じて多くの方に発信していきたいです。(真) *第2回の潮濱コンサートが全規模で開催され楽しみです。そして第3回もより良くと始動。(三) *タンさんのインタビュー、本当に緊張しました。(横)

お詫びと訂正 「コンチェルトV&S」掲載の記事中「斐木珠さん」を「斐木珠さん」と誤っておりまして、深くお詫びして訂正させていただきます。

～ ボランティア 良き時良き友 与えられ ～(長由)